おためし・漢字おもしろ講座

≪第３回講義に関連する質問＆解答≫

ＱＩ　資料記載の「コスパの良い雑誌…」のコスパの意味　cost performance。

４字前後の漢字で的確な日本語訳を紹介して下さればありがたいです。

ＡＩ：「コスパ」は、「コストパーフォーマンスの略」で、元来は、機械や医薬品の開発現場で性能と価格との比など経済専門用語として使われた言葉で、日本では、これが一般的にも使われるようになり、今では「費用対効果（支出した費用と得られたものとの割合の満足度）」などの意味で、日本語として広く使われるようになった和製英語と理解しています。

英語は勉強不足で逆からの説明になりますが、日本語として使っている「コスパ」（費用対効果）を英語で使う場合、「cost performance」では通用せず、「cost-benefit performance」（benefit は便益）、あるいは単純に「reasonable」（金額に見合った価値がある）が適当かと思われます。

なお、お尋ねの「cost performance の的確な日本語訳」については、一般的な英和辞典などでご確認頂けるのではないかと思います。

Ｑ２　当て字は、いつからあるのでしょう（言葉はどんどん変わっていくというお話がありました。当て字も増えていくのでしょうね）。

Ａ２： 当て字（仮借）は、最古の漢字甲骨文字にも、その方法が使われているとされています。よって、いつからあるかと言えば、漢字ができたとされる中国殷王朝の後期、約3400年前になるでしょう。

　また、日本では、漢字を中国から輸入して、日本語を書き表すことにしたので、その当時からもその方法を利用していると思います。

　なお、想像の域を越えませんが、今後も増えていくものと思われます。

Ｑ３　苗字の由来が知りたいと思います。

Ａ３：今は「名字」と表記されます。元来は「名字（なあざな）」と呼ばれ、中国から日本に入ってきた「字（あざな）」の一種とされます。貴族で使われたのが始まりのようで、それから公家や武家の名字にも発展したようです。

　江戸時代には、私的に名字を持つものも増えたが、明治８年「平民苗字必称義務令」により、国民はみな公的に名字を持つことが義務付けられたとなっています。

　なお、ご自身の名字の由来については、該当する名字があるかは不明ですが、ネットで見ると、「神戸市立中央図書館パスファインダー」の「苗字（名字）の由来を調べる」には、様々な名字に関する辞典の紹介もされています。ご参考にされてはと思います。

Ｑ４　行書や草書の成り立ちについても教えてください。

Ａ４：書体の変遷については、諸説がありますが、秦の始皇帝の時に文字を統一するために考案された書体が篆書とされます。

　その後、より実用的で早書きできる隷書が生まれ、さらに、字形を崩すことで早書きできる草書が生まれたが、その草書は字を崩しすぎると判別が難しくなる面があるため、正式の公文書でも使えるよう、隷書と草書の中間の行書が生れた。

　これらの変遷は、文字を早書きできる目的と、公文書などの正式文字を正しく書き表す目的の両方を満足させるために、試行錯誤（より早くより実用的に）した結果であると思います。

　こうした一方で、紙の発明とその普及した後の紀元 300 年代には、王義之（おうぎし）（307 年～365 年 東晋の書家）などによって、行書や草書が芸術として発展したという側面もあります。